



音楽運動



日本音楽協会 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町3丁目10-15 富士ビル505号室 発行人 松本敏之
TEL 03-3221-1821 FAX 03-6369-3057 URL <http://nichionkyou.org> Email nichion@yomogi.or.jp



富山県・富山地区平和運動センター2020年旗開き(1/14)

スクラム組んで乗り越えよう
みんなでいっしょにがんばろう

●反原発うたいたいのテーマ

詩＝笠木博逸 曲＝黒人霊歌(原曲＝漕げよマイケル)



原子力発電所 いらぬや 核のゴミなど いらぬや
よこれた水は いらぬや よこれた空気 いらぬや

私のふるさと かせせや 豊かなくらし かせせや
生きてる大地 かせせや 生きてる海を かせせや

辺野古に土砂は やめれや 基地建設は やめれや
憲法改悪 やめれや 安倍政権は やめれや

明日の天気 ハレルヤ 雨が降っても ハレルヤ
気持ちはいつも ハレルヤ きっと変わるよ ハレルヤ

ハレル～ヤ

(※ 好きな言葉をあてはめ、リフレインしよう！途中で半音づつ上げて面白)

※6面も参照願います。

参加申し込みの締め切りを延長します

日音協セミナー、若い会員の交流会は、参加申込第1次締切を1月23日としていましたが、参加者予定枠にまだ余裕があることから、2月10日(月)まで受付を延長します。

2面の案内も参照願います。多くの申し込みお待ちしております。

今年も年明け早々、「2020年富山県職労本部団結旗開き」(7日)、「自治労富山県本部新春旗開き」(8日)、「富山県・富山地区平和運動センター2020年旗開き」(14日)、「新春のつどい」(18日)がありました。どの会場も最後は参加者が輪になって「がんばろう」を歌い決意を固めました。



演奏する富山県支部のメンバー

6日に「富山県支部第46回総会」の開催と11日の「9条を守る会総会・記念講演」での演奏



自治労富山県本部新春旗開き(1/8)

を予定しています。

(富山・磯野友一)

2020日音協セミナー&若い会員の交流会
2020.2.21(金)～2.23(日) 東京都小平市・学園坂スタジオ他

まずは労組と会員が音楽で集える場所を

2020.1.16 18:00~19:45

秋田市ふれあい交流センターAU 研修室5

出席者 加盟団体：教組・東北機械・自治労・全農
林・林野労組

活動家：村岡・佐藤・大嶋・熊谷・藤原・
木下・沓沢・後藤

総会は、「音楽祭での『なまはげ』の評判がよかったおかげで、『なまはげ』のドキュメンタリー映画の撮影がはじまりました。撮影の打ち合わせやわたしの家も撮影場所になったりで、忙しくしています。」と総会議長に就任した大嶋さんのあいさつからはじまった。

冒頭村岡支部会長から音楽祭の取り組みと1年間の活動を支えていただいたことへの感謝などのあいさつがあり、続いて松本会長からのメッセージが披露された。

活動経過では、第52回はたらくものの音楽祭に取り組み、中央実行委員会、秋田県実行委員会に結集していただいた連合秋田をはじめ県支部加盟労組と友誼団体の皆様から、影に日向にたくさんのご協力を頂き、音楽祭の準備や記念CDの制作など県支部として貴重な年を過ごしたことの報告があった。

また、年間の活動は東北北合宿や連合秋田中央地協主催の平和のタベ、秋立憲ネットの集会などでの演奏活動。例年取り組んでいる食とみどり・水を守るフェスティバルでの演奏は音楽祭に集中することで参加を取りやめたことが報告された。

討論では、「職場や労組で旗開きや集会などで歌を歌う機会があったら、日音協で歌いにいくからそういう機会はないか」という問いかけに、東北機械労組の出席者から、「年配者が定年でたくさん退職して、若い人がおおく採用されているがやめていく人も多く組合員の数も減っているの、そういう機会をつくることも大事だとは思う。」と発言があった。

その他に、自治労からは「集会や学習会など若い人が集まらない。若い人が集まるところから活動家を見つけ育ててきたがそうした機会がなくなってきた。」「コピーバンドなど労組の活動の外側で活動してる人たちとの関わりも探ってみてもいいのではないか」。教組からは、「労組内に音楽をやってる組合員はいるが音楽運動のリーダーはいない。労働運動に結びついた形ではうまくいかない。」

活動家からは、「養老施設での演奏活動が年20回を越えた。歌謡曲をメインに反戦平和、反原発を少しいれる。この人たちはみんなで歌うことをしてきた世代だが、今の若い人たちは個人的に聞いたり、数人でカラオケで歌うだけなのでみんなで歌える歌があるのか。」「非正規の人が大勢いる世の中に日音協とはたらく者との関わりでつながるところがあるだろうか。」などの発言があった。



県支部がどんな音楽現場を創り出していくのかは大事な運動課題。まずは県支部に所属する労組、友誼団体と会員、その回りにいるみなさんが音楽でもって集える場所を作り続けていくその先に答えがあると信じてこの道を歩き続けることを確認して総会をおわりました。

なお、役員の交代については当面検討を続けることと了承されました。
(後藤雅裕)

日音協セミナー、若い会員の交流会は、参加申込第1次締切を1月23日としていましたが、参加者予定枠にまだ余裕があることから、2月10日(月)まで受付を延長します。

日音協セミナーは、港大尋さんにご指導をいただきます。港大尋さんは第50回はたらくものの音楽祭で中央実行委員会ゲストとして演奏していただきました。Wikipediaでは、港大尋さんは日本の作曲家・プロデューサー・ピアニスト・シンガーソングライター、と紹介されていますが、ギタリストでもあり詩人でもあります。『音楽運動』1月1日号2面所載の谷森駿ペンネームによる寄稿も参照してください。この際、音楽の専門家にあなたの演奏、創作、アレンジにアドバイスをいただいてみませんか。

若い会員の交流会参加者も、港大尋さんの講演と、夜のミニコンサートでの港さんの演奏も聴くことができます。

日音協セミナーにも若い会員の交流会にも、まだ会員になっていない若い方が参加されます。ぜひ、あなたも、まわりの会員、仲間に声かけてご参加ください。

■日音協セミナー＆若い会員の交流会 共通■

2020年2月21日(金) 21時30分から23日(日) 15時まで

東京都小平市／学園坂スタジオ(西武鉄道多摩湖線一橋学園駅3分)

参加費：18,500円(21日交流会欠席は-1,500円、1泊のみ-6,000円)

■日音協セミナー■

各支部1人につき往復交通費のうち13,000円を超える分を日音協が負担

■若い会員の交流会■

40歳以下の日音協会員の往復交通費は日音協が全額負担いすれも、参加申込第2次締切 2月10日(月)ただし定員に達したときは期日前に締め切ります。

今年はミッキーに会えるかな？ FMカンパニーが総会

FMカンパニーは2020年定期総会を、1月25日(土)に新十津川のロッジで開催した。参加者は10名。今年は記録的に少ない積雪で道路にも雪はなく穏やかな総会となった。(2年前は猛吹雪で雪山に突っ込んだから)総会議案書はカラー写真を織り込み少し手をかけてみた。そのお陰か色々議論が出た。昨年度は秋田での音楽祭にFMカンパニーから14名が参加し、秋田の大島邸で走馬になったり、本物のなまはげに逢えたりと記憶に残る祭典であった。

11月には2年ぶりの「うたっていいんでないかいコンサート」に110人の参加者を集め大成功に終えることができた。さらに別荘で合宿をするなど、何かあればBBQで大いに飲んだ一年だった(まあみんな元気だったことが一番)。

さて、今年の活動方針は6月の千葉祭典に向けて取り組み新しい歌を披露すること。さらに秋にはメンバーがそれぞれライブなりコンサートを目指すことを確認した。あわせて笠木さんから「ザ・ロード」に次ぐものとして、ブービーバンドのCD、DVD集を監修したいとの提案があった。今年の祭典までにCDを、来年にはDVDの出版を考えている。

さて酒も飲まずに総会を終えたあとは、コンサートのDVDの鑑賞をしながら宴会となり夜は更けていった。

翌朝は、それぞれ持ち寄った創作曲(全9曲)を披露。この中から祭典での発表曲4曲(FMカンパニーとノースサイド)を選考することになっていたが、いずれも入選曲はなし。2月末までに改めて手直しして来ることになった。

メンバーの多くが60歳を越えて、現役労働者がいなくなってしまう、いつまでメーデーや集会での演奏に呼びかけられるのか不確定だが、政治や世の中の問題に目を背けず歌い続ける一年にしたいと考えています。では、全国の皆さん千葉で会いましょう。夜の交流会に今年は「ミッキー」に逢えるのかな。楽しみです。

(磯野宏之)



貴重な財産の数々 CD DVD 資料 ...



今年もマジメに議論しました

この会場から音楽現場を 青森県支部総会



会場は地下にあり、音出しOKとのことで、思い思いにステージに上がって、ギター片手に、往年の美声?を披露していました。

新しい会員はなかなか拡大できません。だからこそ今いる会員とのつながりを大切に、音楽現場を増やしていくことが必要なんだと改めて感じました。

これから、この会場も活用し、一歩前は無理でも、半歩でも前に進めるような1年にしたいものだと思った夜でした。(甲屋文史)

1月24日、同会場で嵯峨さんのグランパがステージ。国労の旗開きもタイアップ。ベンチャーズ・サウンド中心のテクテクサウンド...。県支部もここから出発だ。

(佐藤康弘)



青森県支部は1月18日、青森市・青森駅前のカフェ「かくれんぼ」で2年ぶりの総会を開催し、8人が参加しました。

何年かぶりに顔を合わせた人もいて、近況や今後の活動等、いろんな話になりましたが、とにかく、これから集まる機会を増やし、話をしたり、歌っていいことになりました。

乾杯の後、歌集「うたのひろば」を見ながら(老眼?目を細めて、久しぶりに組合歌やなつかしい曲をたづねて歌いました。

小島力さんを励ます会 福島県支部が定期総会も開催

年も明けて1月7日と8日、日音協福島県支部は「定期総会」と「小島氏を励ます会」を開催しました。昨年6月に東京武蔵野より郡山市に引越されて以降、体調不良や腰の痛みなどでなかなか顔合わせも出来ずにいたことから、近くの三春町の旅館に泊りだけで会員が集合し、小島さん宅にお邪魔して話をしようとの企画でした。

都支部コンサートでの小島さんの詩の朗読や秋田祭典での県支部と東北南の発表ビデオなどを見てそれぞれの今の想いを語り合い、小島さんの奥様の手作り料理をいただきながら話に花が



郡山の小島さん宅にて

2020.01.07

咲きました。小島さんからは「原発事故からの復興」の大合唱が叫ばれている中で、今の食料品検査で放射能値が百ベクレル以下は放射能検出せず・・・とされていることが堂々とまかり通っていることへの怒りと、私たちはいつまでもこの問題を声に出し続ける大切さが提起されました。

旅館に戻り宴会を前に「県支部総会」を開催。昨年の全国総会や今年3月の原発いらない県民集会への県平和フォーラムとの折衝状況の報告の後、中央から提起されている福島における原発問題でのコンサート開催について議論。今年の取り組みは厳しいが来年に向けてまず企画書をコンサート経験豊富な菅井氏にお願いし、再度集まることを確認しました。現役で仕事をしている会員も少なく、組織との関わりが少ない現状からどのようにどこに呼びかけるのか、クラウドファンディングなどの方法も紹介され、まずは一歩踏み出していくことが確認されました。

今回の参加者は支部会員8名。役員体制は全員留任。会長（南條）（副会長（大友））事務局長（二階堂）事務局次長（鈴木）顧問（小島）です。（南條 善徳）

旗開きでスタート

2020年岩手県支部は、旗びらきでスタートしました。

1月5日（日）社民党岩手県支部と平和環境岩手県センターの合同旗開きが行われました。岩手県支部はオープニングとエンディングを担当しました。

オープニングは大沢さんの曲「そ」と新毛さんの「安倍くん2019」の2曲でした。若い仲間も中堅どころも定年前でも、さらに定年してもがんばっているぞ！と歌いました。

去年のこの場で新毛さんの「安倍くん」を2018バージョンに歌詞を変えて歌いましたが、2020年も安倍くんとさよならするために、安倍くんとさよならしたいという思いを込めてバージョンアップして2019として歌いました。新毛さんのピアノ伴奏で歌うことができました。日音協岩手県支部の幹事を担当いただいている国芳の及川さんも駆けつけてくれました。

エンディングでは毎年恒例の「がんばろう」「インターナショナル」の2曲を歌いました。会場の参加者のほとんどの人が歌詞も見ずに歌っていました。元県支部会長の伊澤さんの指揮で力強い歌声となりました。会場が一つになったと感じたのは私だけでしょうか。歌の持つ力ってすごいと思いました。

他に1月15日に久慈で党と平和環境久慈地区センター合同旗開き、20日には岩手県教職員組合県北支部久慈の旗開きのオープニングで、「そ」「安倍くん2019」の2曲を歌いました。合同旗開きでは「そ」の歌唱指導に挑戦し、参加者と歌う場面を作ることができました。（佐藤幸子）



1月5日



1月15日

＜今後の岩手県支部の活動予定＞

- 2月21日（金）～23日（日） 日音協セミナー2020 & 若い会員の交流会 【東京都小平市】
- 4月4・5日（土・日） 東北北合同練習会 ※第53回はたらくものの音楽祭（千葉市）へ向けての練習会
- 4月11日 第34回反核燃の日全国集会【青森市】
- 5月14～17日 第43回5・15平和行進（沖縄行動）
- 6月13・14日（土・日） 第53回はたらくものの音楽祭【千葉県千葉市・千葉県教育会館ホール】
- 6月27日（土） 健康を考える集い（岩手県内）
- 10月 東北北ブロック合宿（秋田県支部主管）

視点拝借①

戦争反対 言葉の先には

＝後藤正文の朝からロック＝

朝日新聞 2020.1.15

シリアやイラクの難民キャンプで暮らす人々への寄付を募る NGO に記事をインターネットでシェアしたところ、フォトジャーナリストの安田菜津紀さんから感謝のメールが届いた。

NGO は現地で医療支援を行っており、安田さんが難民キャンプ取材する際に協力してもらっている団体で、僕のバンドのファンの方もスタッフとして参加しているとのことだった。拠点はアルビルというイラク北部の町。クルド人自治区のなかでも治安が安定していて、安全だからこそ多くの避難者が集まっているのだという。

現地スタッフからの「いつかお越しください」という伝言もいただいた。アメリカとイランの対立で中東情勢は予断を許さないが、行ってみたいと思った。

翌日、イランから放たれた弾道ミサイルが、アルビルの町に着弾したというニュースを知った。ショックだった。

一通のメールのやり取りによって、戦争や紛争がぐっと自分の近くにやってきたように感じた。家族や友人の顔を思い浮かべるときのような想像力を持たずに、ニュースを見聞きしていたのだと反省した。

「戦争反対」という大きな言葉の先には、無数の人々の暮らしがある。新たな争いを拒む言葉であるとともに、現在の難民たちが未来に平穏な暮らしを取り戻すことを願う言葉でもあるべきだ。改めて、戦争反対。

(ミュージシャン)



九州支部が忘年会

日音協九州支部は昨年12月15日、熊本県小国町杖立温泉で忘年会を開催しました。

参加者は5人でした。(山田 力)



広島県音楽サークル協議会です

昨年の12月は、恒例の広島県音楽サークル協議会の年末の「うたのひろば」を昨年と同じ、広島市内のミスターカラオケのイベントホールで、12月14日(13:30~16:30)に開催しました。

内容は、オープニングシングアウト。出演演目は、窪田聡氏(連続9回ゲスト出演)を含め12団体の演奏でした。中間に、30分程度シングアウトを入れてたっぷり参加者に歌っていただきました。(昨年は17演目と多く、全体で歌うコーナーが少なく、もっと歌いたいとの要望に応えました。)

なので全体の参加者は昨年より少し減り、約30名の参加でした。

内容は下記のアコ集団 NORA のブログを参照願います。

http://www12.plala.or.jp/hmcc/acc_nora.html

広音サ協の現在の主な活動は、反核平和の火リレーの出発式と到着式での「平和の火よ走れ」と「原爆を許すまじ」の演奏/県平和友好祭典への音響支援/原水禁世界大会の開会総会とまとめ集会での「原爆許すまじ」の伴奏とリード/年末の「うたのひろば」の開催 くらいです。

あと、アコ集団 NORA (広音サ協のメンバーは小山・尾上・森本で、あとは一般女性3名)の活動が、月2回の練習/3月・6月・9月・12月の歌声喫茶/要請があれば出前演奏(年間4~5回) ...くらいです。

NORAの活動の方が頑張っています。(尾上 耕造)



水道橋 だより

▼またまた勝手ながらメールを紹介しします。

▼今年もよろしくお願ひいたします。さて、私が日頃愛読している北海道新聞のコラム「卓上四季」の2019年1月から2020年1月までのまとめたファイルを送ります。もし必要なければボイしてください。作品づくりの参考になれば幸いです。▼札幌は、ずーと雪のない正月だったのに、昨日と今日がぱり降りました。除雪作業で汗を流しています。みなさん風邪などひかないように気をつけてください。(笠木)

▼笠木さん、よく一年もまとめたものです。辺野古の問題、原発について、憲法…、興味深く読ませてもらいました。青森駅でも北海道新聞を購入できます。1月24日号は「貧困や格差」についてでありました。読者の皆さん、今号に「視点拝借」(勝手に命名しました)として掲載しましたが、いろんな視点でのコラムを寄せてください。(佐藤)

▼余談ですが、青森駅のプラットフォームでの高校生の会話。▼A子「センター試験どうだった？」▼B男「むずがしがったじゃ」「それよりC子が来てでビックリしたじゃ」▼A子「あのヤル気のないC子がよく来たの～」▼B男「ところで、机の上でスマホ出して、会場から出されだヤズいるって聞いたが？」▼A子「うんうん、カンニングするくらいだったら、アギラメロって！」▼くったくののない高校生(孫の世代?)の会話に何か潔さを感じた今日このごろでした。完全退職まであと一年…。(佐藤)

歌の力が物語るもの 86

官邸前反原発行動 1/24 (379回) 報告 鈴木

参加者 スーさん、ヨネさん、葉子さん、坂口、森、達哉、望月、なべさん、鈴木 9名

スーさん、ヨネさんが早々に到着している所に、森さん、達哉君、鈴木が到着。森さんのアコで伴奏で、お迎えの歌を歌った。ヨネさんがいるうちに、ヨネさんが好きな『DO! 廃炉』を歌う事にした。歌が苦手だというヨネさんは、葉子さんが持つて来てくれたベルトでムチの音を出す役だ。歌い終わると、いつの間にか、達哉くんが、ムチの音を出していた。ムチの音を出すのは、魅力的な事なんだと思う。次回は、もう一本ベルトが必要だと思った。

今日は、『DO! 廃炉』の作者の笠木博逸さんが作ってくれた新曲、『反原発うたいたいのテーマ』を何回も練習した。

毎週金曜 歌うや
毎週金曜 歌うーや
みんなと一緒に
歌うーや
明日を信じ
歌うーや

黒人霊歌(原曲、漕げよマイケル)の替え歌で国会前の寒さを忘れさせてくれる、とっても、元気の出る歌です。笠木さん、いつも、いい歌をありがとうございます。

たんぼぼ舎前では、早速、『反原発うたいたいのテーマ』を初披露。

なべさんが好きな、『そんな世界が一番』、スーさんが『振り向かないで』の替え歌、先週初披露した『辺野古応援だソング』、定番『原子力発電NO!』を歌った。

スーさんはいつの間にか『振り向かないで』の歌詞を全部覚えてたようだ。頭が下がる。年の初めから新しい曲が歌えて嬉しい。上野さんの『炉・廃炉』も覚えて歌いたい。次回は、たんぼぼ舎前で、谷中村応援歌を歌いたいと思います。

撤収の時、なべさんが、新年会の一分間スピーチで『私たちは許さない』を歌ったと話してくれた。なべさんも歌の力に元気をもらっているようだ。

追申

なお、『辺野古応援だソング』(聖者の行進の替え歌、作詩・加本さん)を紹介します。

① 応援だソング 辺野古の

応援だソング 歌おうよ

暴力の波の中
正義は耐え抜く

② 応援だソング 辺野古の

応援だソング 歌おうよ

自由と平和願う
島人の叫び

③ 応援だソング 辺野古の

応援だソング 歌おうよ

僕らの勇気が
未来を変える

さすが、加本さん。今年も、みんなで力を合わせて、未来を変えるよう頑張るぞー!

どん行

(127)

飯島貞親

ともに暮らしな
くなる。うがっ
てみれば、これ
とて世代間の対
立をおおる材料
になつてはいな
いか。

▼神奈川県相模原市にある障がい者福祉施設で、この施設の元職員が、この施設によって19人の入所者が殺害された事件の裁判が大きく報道されている。元職員はいまでも犯行を正当化し、障がい者を抹殺すべきとの主張を繰り返しているという。今回の事件を受けて語られるようになった言葉のひとつに「優生思想」がある。優れた子孫の出生を促し、劣った子孫の出生を防止することで、民族の質を高めると考えるこの思想。ナチス・ドイツ政権下での精神病患者・障がい者に対する断種などが有名だ。▼だが、筆者には単なる妬みが原因ではないかと映ってしまう。昨今の日本社会にはびこる自己責任論。構造的な問題に目が届かず、生活保護受給者や公務員へのバッシングが減らない。バブルの頃は、公務員をうらやましいなんて誰も思わなかった。それが世の中が不景気になるとたちまち逆の発想に変わる。▼安倍首相は、全世代型社会保障の実現を誇らしく語っているが、現行の年金制度が高齢者に優遇だという現役世代の不満に代って同じように高齢者になつたら75歳まで働かされ年金もまたもにもらえなくなる。うがってみれば、これとて世代間の対立をおおる材料になつてはいないのか。